

ご挨拶

日本解剖学会会員の皆様におかれましてはご清栄のこととお慶び申し上げます。この度、千葉大学で第 28 回関東支部懇話会を開催させて頂くことになりました。よろしくお願いたします。

さて、近年解剖学領域では学生教育以外にも卒後教育への献体の活用が話題となっております。「臨床医学の教育及び研究における死体解剖のガイドライン」も制定され、2017 年末の時点で全国 15 大学が取り組んでおります。また厚生労働省が 2018 年から予算を増額させ、取り組む大学へのサポート体制を構築していくようです。その一方で、検討を始めたばかりの大学からは、どこから手をつけて良いか、どのような設備があると良いか、どれくらいの負担が生じるのか、などの不安ばかり聞こえているのも事実です。そこで、本懇話会では、行政の支援状況を厚生労働省医政局医事課から堀岡伸彦先生、ガイドラインを制定した CST 推進委員会のメンバーであり、昨年大学内で組織立ち上げに成功したばかりの北海道大学消化器外科Ⅱ講座から七戸俊明先生、防腐処置を行う技術職員経験者で、現在は教員として運営に携わっている東京医科大学人体構造学分野から河田晋一先生、整形外科教室から解剖学教室に異動してクリニカルアナトミーラボを立ち上げた千葉大学環境生命医学教室から鈴木崇根先生に講演を御願いしました。ガイドラインなどの法的な位置づけから防腐処置の話、臨床教育の全体像まで、Cadaver Training に関するすべてのテーマについてディスカッションできるメンバーとなります。

同様のシンポジウムは外科系学会や解剖学会でも開催されておりますが、いつも聴衆がどちらかの分野に偏ってしまっています。本懇話会では、参加者を臨床講座や技術職員にも広げ、すべての立場から有意義なディスカッションができればと考えております。解剖学関係者だけでなく、立ち上げに興味がある臨床講座の皆様も参加可能ですので是非ご一緒にご参加下さい。また、このようなテーマの情報共有を目的としたカダバートレーニング研究会の立ち上げも企画されていたタイミングでもあり、今回は共催と致します。

本懇話会は座席確保の都合もあり、メールによる事前参加申込（先着 100 名程度）を行います。所定のフォームにて、上記の懇話会事務局のメールアドレスまでお知らせ下さいますようお願い致します。

第 28 回日本解剖学会関東支部懇話会 会長 森 千里
(千葉大学大学院医学研究院 環境生命医学 教授)